

	課題（児童の実態，学習状況，指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン，具体的な手だて）
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文や説明文を読む学習では，叙述に即して心情等を読み取ったり，根拠を明確にして大切な情報を読み取ったりする力が不十分である。</li> <li>書く活動に意欲的に取り組める児童もいるが，より分かりやすく正しく伝わるように工夫して書く力が低い。</li> <li>自分の考えを積極的に伝えることや相手の立場や意図を考えながら聞くことが不十分である。</li> <li>学習した漢字を日常的に意識して使う児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文や説明文を読み取るときに，ポイントとなる言葉や文章に着目させるとともに，常に本文に立ち返らせながら根拠を明確にして自分の考えを組み立てるよう指導する。</li> <li>文章構成を考えながら書く内容を整理させたり，接続詞や文末表現を工夫させたりすることで，分かりやすい文章を書くことができるようにしていく。</li> <li>「話す・聞く」の活動の機会を十分に確保する。また，相手の立場や意図を考えたり，自分の意見と比べて共通点や類似点，相違点に着目したりしながら自分の考えを話したり聞いたりすることを指導する。</li> <li>ノート指導や作文指導を通して，漢字ドリルや漢字辞典を使いながら，既習の漢字を用いて文を書くように指導する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を基に学習問題を立てたり，調べたりする活動に意欲的に取り組む児童もいるが，複数の資料を比較・関連し，そこから考える力が不十分である。</li> <li>社会的事象について興味・関心をもっている児童も多いが，方位・大陸や海の名前等の基礎的事項の理解や，資料の読み取りなどの技能の面では習熟が不十分な児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の生活や経験を踏まえ，身近な事象を取り上げて興味・関心をもたせるとともに，それらの事象が社会や国民生活に深く関係していることに気付かせる。また社会的事象に関わる問題に目を向けさせ，自分なりの考えをもたせるようにするとともに，話し合い活動の場を多く設ける。</li> <li>資料の見方を丁寧に指導していくとともに，複数の資料を参照するときには資料を読み取る視点を示し，比較させたり，関連・総合させたりする。また資料から読み取れる事実とそこから考えられる事柄を分けて表現させる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>5展開の習熟別指導を行っている。</li> <li>既習の基礎的な知識や技能が定着していない児童も一定数いる。</li> <li>自分の考えを筋道立てて表現する力の個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導を心がけ，計算の基礎的な技能はドリル学習等で反復を通して習熟させる。また，学習の前には前時や既習事項の復習を適時取り入れ，本単元の学習につなげていく。</li> <li>言葉・式・図・数直線などを活用させることで，自力で主体的に問題解決できる力を高めると共に，筋道を立てて説明できる力を伸ばす。</li> </ul>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実験や観察など意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>• 既習の学習内容や身近な生活経験を根拠にして予想を立て、理由を明確に発表できる児童が少ない。</li> <li>• 実験結果から自分の言葉で考えをまとめたり、考察したりすることに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実験に取り組む際には、生活体験や既習事項との関連を振り返りながら、予想や仮説をもち、理由を明確に発表できるようにする。</li> <li>• 実験結果から分かったことを明確にし、筋道を立ててまとめることができるようにする。</li> <li>• 友達の意見や考えを共有して、自分の考えに生かせるようにICT機器を活用していく。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体を動かしたり、ゲームに取り組んだりすることに意欲的な児童が多い。反面、苦手な運動内容に対しては積極性に欠ける面も見られる。</li> <li>• 表現する（言葉で伝える）ことに苦手意識をもっている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運動のポイントを明確に提示することで、児童がポイントを意識して運動に取り組めるようにする。</li> <li>• 自分の課題を意識しそれを解決するために練習の場を工夫したり、練習を選ばせたりする。スモールステップで技能を高めていく。</li> <li>• 言葉掛けのポイントを共有し、動きをICT等を活用し、より具体的に互いにアドバイスができるようにする。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体としては、落ち着いた雰囲気の中で学習ができています。しかし、学習規律が身に付いてない児童が各クラスに数名程度おり、学級全体がその雰囲気に流されるときがある。その時間をなくすことが、課題の一つである。</li> <li>• 実習では、集中力や根気に向け、すぐに投げ出そうとする児童もおり、すべての生徒に完成の喜びや達成感を持てるようにしたい。</li> <li>• 学習指導要領の内容をさらに深く理解するとともに児童理解を進め、発達段階に応じた指導を徹底する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 聞く姿勢づくり、話を聞くときには私語をしない、順番を守るなどの基礎的事項については、家庭科でも指導を徹底する。</li> <li>• 児童観察と理解、それに対応した指導法をくふうする。特に自己表現の苦手な児童への指導を注意深く行う。</li> <li>• 実習を通しながら、家庭生活全般への知識や理解を深め、基礎的技術を身につけさせ、家庭生活への意欲を高めたい。</li> <li>• 課題をスモールステップに設定し、できたことを認め、学習意欲の向上を図る。</li> <li>• 教材と指導の実際について、他校の実践を参考にしながら、教材研究を深める。</li> <li>• 家庭科室の環境整備と教材見本の作成に取り組む。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 道徳的価値について、その大切さを授業の中でしっかりと考えることができる。ただし、それを実生活の中で実践していけるかに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の生活を振り返りながら、これからの生活や生き方について考えられるように、主題を設定していく。また、道徳授業を学級活動や各教科とも関連付けて、道徳授業での学びが一層生かされるようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の考えを書くことは多くの児童ができる。全体に自信をもって発表するまでには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様な意見を受け入れ、そのことが大切であることを価値付けていく。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 英語に興味をもっている児童は多い。しかし、授業の中で学んだことを次の授業や日常生活に生かそうとする児童は少ない。</li> <li>• 初めて習う英単語に対して苦手意識をもち、発言の声の大きさが小さくなる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業で学んだ外国語表現を日常生活でも活用できるよう、意識付けを図る。</li> <li>• 間違いをおそれず、積極的に発言できる雰囲気を作っていく。</li> </ul>